

令和8年8月24日

貝塚市議会議長 川岸 貞利 殿

視察報告書＜和歌山県橋本市＞

大阪維新の会 中西 真知子
長谷川 博文
八野 裕嗣

① 視察概要

日時 : 2026年7月31日(金)

時間 : 10:00-11:30

視察先 : 橋本市役所



② 視察の目的

人口減少時代の教育行政について、同じ規模の自治体である橋本市ではどのように地域と学校をつなぎ、子どもたちの「学び」と「育ち」を支えてきたのか。その背景や工夫、抱える課題、日々の積み重ねなどを学ぶ。

③ 貝塚市の現状と課題

子育て支援、学童保育、学校教育のよりよい充実に向けて、学校と学童の連携、行政の中での担当課の連携、地域 NPO や団体の活躍、そしてコミュニティ・スクールを通じた地域協働は、非常に重要であるが、貝塚市にもまだまだできる事があるのではないかと考える。今後の発展に向けて、担当課を越えた連携や地域住民の支援や協力など、関係各所のより深いつながりや連携を強化していく事が必要であると考えている。

④ 視察を終えて

今回の視察では、橋本市教育委員会より今田 実教育長、岡 一行教育部長をはじめとする5名の職員から橋本市の取組について説明を受けた。

行政における担当課を越えた連携という事に課題を感じていたため、事業を進めるにあたり学校教育と子育て支援の連携があったのかを深く知る事ができた。

橋本市も同様に、これまでの背景として学童保育が子育て支援なのか福祉なのか教育なのかと庁舎内でも頭を悩ませた時期があったようだが、それを解決したエピソードとして、平成29年に教育と福祉の連携を強化するという、総合政策部の中に教育福祉連携室を設置したことが橋本市の取り組みの大きな起点となった。

現教育長がその室長を担ったという事で、校長・行政経験に加え、大きなプロジェクトの中心を担っていた立場からの苦悩や課題、乗り越え方などをリアルな声として学ぶことができた。

その他、市単費での職員確保や、学童指導員のコミュニティスクール参画など、今後の本市の発展に深くつながるヒントをつかんで帰ってくることができ、非常に有意義な視察となった。